

4月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I値の動き

令和4年4月のD I値は8指標中、5指標が上昇。また「販売価格」は横這いであり、「景況」「収益状況」においては下落となった。

2. 県内中小企業の景況の現状

先月に引き続き、製造業や小売業では売上げが持ち直しつつあり、気温の上昇と共に衣料品の売上げが上がっているとの声があった。また商店街でも売上の増加や、新規出店など明るい報告があった。旅行業でも県内ではあるが旅行を考える人が増えており、県南エリアではDMV関連のツアーが増えてきている。

しかし依然として、新型コロナウイルス感染症による影響が残っていることに加え、ウクライナ侵攻による更なる価格高騰や先行き不透明な現状に対する不安も大きい。また、自動車整備業では自動車の高度化により、整備に対応できなくなった專業事業場に対する対策が大きな課題となっている。

今後、中国における感染再拡大の影響やウクライナ情勢の長期化などが懸念される中で、供給面での制約や原材料価格の上昇、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意し、感染症による影響も注視する必要がある。

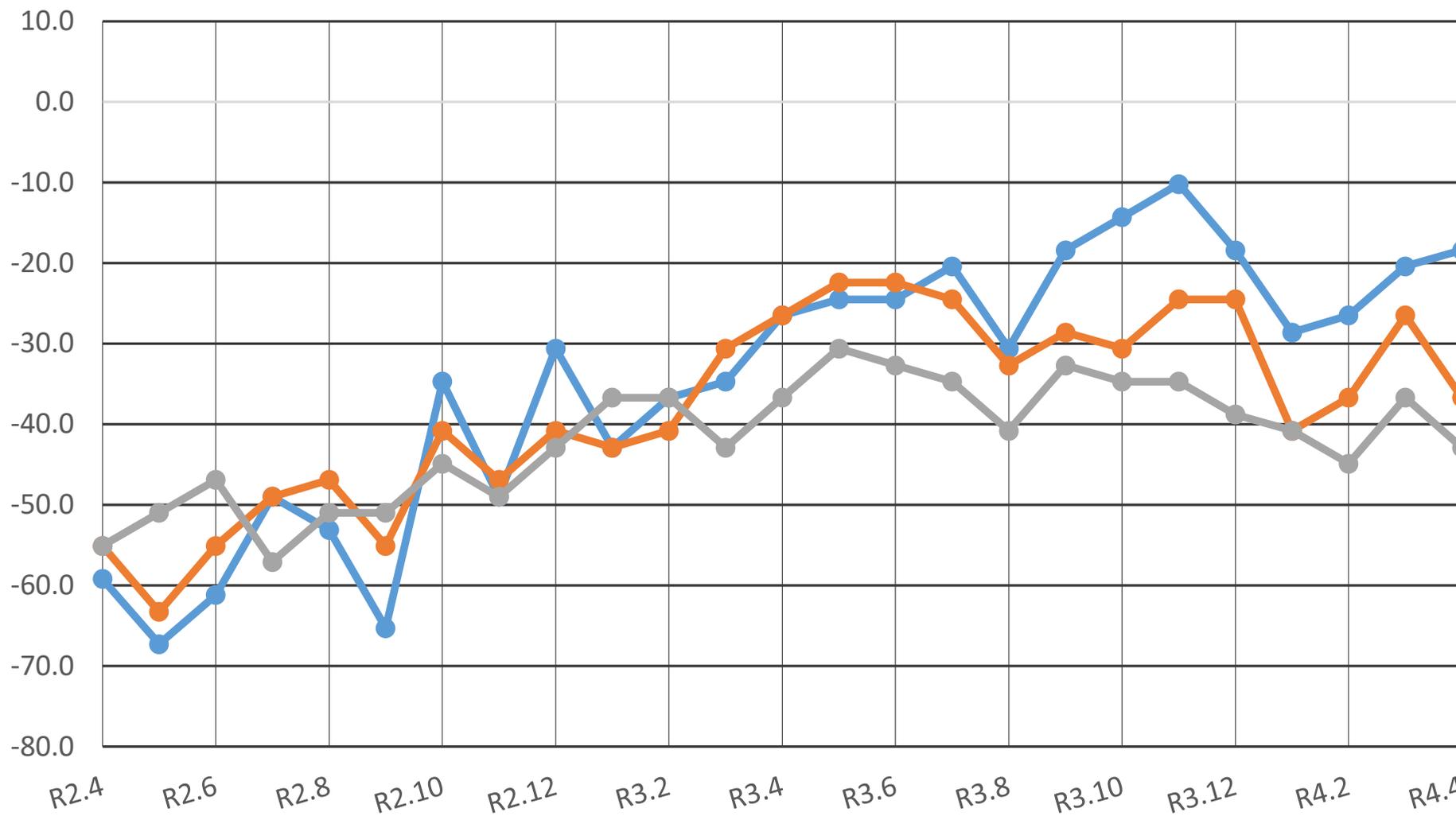
最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

| | R3 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R4 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 前月比 増減 |
|-------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|-----------|
| 景況 | -36.7 | -30.6 | -32.7 | -34.7 | -40.8 | -32.7 | -34.7 | -34.7 | -38.8 | -40.8 | -44.9 | -36.7 | -42.9 | -6.2 |
| 売上高 | -26.5 | -24.5 | -24.5 | -20.4 | -30.6 | -18.4 | -14.3 | -10.2 | -18.4 | -28.6 | -26.5 | -20.4 | -18.4 | 2.0 |
| 収益状況 | -26.5 | -22.4 | -22.4 | -24.5 | -32.7 | -28.6 | -30.6 | -24.5 | -24.5 | -40.8 | -36.7 | -26.5 | -36.7 | -10.2 |
| 販売価格 | 6.1 | 12.2 | 18.4 | 18.4 | 12.2 | 18.4 | 12.2 | 14.3 | 18.4 | 22.4 | 16.3 | 18.5 | 18.4 | 0.0 |
| 取引条件 | -16.3 | -18.4 | -8.2 | -12.2 | -16.3 | -14.3 | -6.1 | -8.2 | -8.2 | -16.3 | -24.5 | -16.3 | -12.2 | 4.1 |
| 資金繰り | -26.5 | -20.4 | -14.3 | -16.3 | -14.3 | -10.2 | -12.2 | -16.3 | -16.3 | -16.3 | -20.4 | -20.4 | -16.3 | 4.1 |
| 設備操業度 | -10.2 | -6.1 | -6.1 | -4.1 | -10.2 | -6.1 | -4.1 | 2.0 | -2.0 | -4.1 | -10.2 | -8.2 | -6.1 | 2.1 |
| 雇用人員 | 0.0 | 2.0 | -2.0 | -10.2 | -8.2 | -8.2 | 2.0 | -10.2 | -2.0 | -10.2 | -10.2 | -12.2 | -6.1 | 6.1 |

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比で味噌の生産量は84.4%、出荷量は85.7%であった。前月比で味噌の生産量は108.6%、出荷量は107.8%であり、前年度に対して大幅な落ち込みとなったが前月比では持ち直してきている。依然としてコロナ感染者数に影響され外食需要の回復が遅れており、また原料価格の大幅な上昇も続いており、厳しい状況が続くと思われる。
2. 漬物・漬物製造業者では前年に比べ販売が上向きになってきているが、消費者の健康志向により漬物自体の販売の先行きに不安を感じている。春ニンジンの価格が低迷している。漬物業・農家ともに労働力の不足に悩んでいる。技能実習生の入国が再開しているものの、当組合での入国は5月以降であり、引き続き人員確保が出来ていない状況である。

<繊維・同製品>

3. 縫製・コロナの状況が少し緩和され人が動き始めた事で販売が少し上向き傾向になっています。また、中国のロックダウンにより中国商品入荷が遅れている為、店舗の商品が品薄な事、この2つの要因で国内生産受注が一時的に多くなっていると考えています。しかし、受注が増えても我々の業種は長年の技術や経験を要する為、人材不足、人材育成の問題が急務となっています。
4. 縫製・全国的にコロナによる不安はあるものの、大方の見方として、経済優先感がある。労働力不足は相変わらず続くなか、入国制限緩和により、外国人雇用はやっと再スタートがきれる状況となった。中小企業の女性活躍推進法改正による取り組みが4月よりスタートしたものの、足踏み状態が続いている。また、弊社においては、自動化による作業効率はまだ期待できていない現状で、労働力不足が生産数に影響している現状は依然として続いている。生産については、従前と同じく次月以降分の製品備蓄を中心に展開し、後半に向けて生産効率に注力予定である。原材料費は、ほぼ全取引において値上げ交渉が続いており、原価にかかる負担額が確実に増える。

<木材・木製品>

5. 製材・製材所での原木の仕入は依然厳しく、需要に供給が追いつかない状態である。特に長尺材、柱材が足りず、全国的には住宅着工が持ち直してきているのに比べ、徳島県の着工数はまだ減少傾向にある。
6. 木材・外材輸入量が減少しているのであれば、徳島県は県産材の増産を目指せば良いのであり、木材の値段が上がる一方で木材離れが目前に来ているのに、まだ理解ができていない。

7. 製 材・原材料不足と価格上昇により価格転嫁が非常に厳しい状況になってきている。

8. 木 製 品・木材合板の不足。光が見えなくなっている。

<印 刷>

9. 印 刷・コロナ感染者数も少しずつ減少し人の動きもでてきました。例年であれば年度の始めという事もあり比較的売り上げの上る月でしたが、昨年の同月は散々の結果で、今月もいい結果が出ない月でした。人の動きが出てきたにも拘らず、ペーパーレス化の進んだ現在、コロナ禍以前のように印刷物の受注はないと思われられた月でした。

10. 印 刷・毎年のごとくではあるが3月の年度末が終わると、とたんに閑散期になる。コロナ禍でイベント関連の印刷物がなくなり、官公庁の入札では益々激しい取り合いが続いている。今年4月も更に厳しいスタートの年度となった。また、5月は休みが多いため売上也がりやすく、苦しい状況が予想される。

<窯業・土石製品>

11. 生 コ ン・4月の出荷量は昨年同月と比べてほぼ横ばい。繰り越し工事も少ない中、月末に雨が降ったりもしたので、昨年4月と比べると若干減少したと思ったが、4月後半に連休前の駆け込み需要があったことで昨年同月とほぼ同様の出荷量であった。

12. 生 コ ン・4月の出荷数量は、対前年同月比11%減であった。要因としては民間での小口工事あるものの、官での大型工事が終わりそれに代わる新規物件の減少による。収益状況については、原材料であるセメント価格の引き上げに続き、骨材・混和剤などの値上げも同様にメーカーから要請されており、更なる厳しい状況に変わりない。

<鉄鋼・金属>

13. 鉄 鋼・全体として業況感に大きな変化はないが、一部では設備操業度が回復し生産性も緩やかではあるが改善している動きが見られる。ただし、ロシアによるウクライナ侵攻や円安進行を受けて原材料価格の高騰も続く見込であり、今後の価格動向に注視する必要がある。

14. ス テ ン レ ス・材料価格の高騰、電気部品・装置部品の長納期化、原油高は継続しており、加えて円安状態の長期化も懸念され、先行きの不透明な状態が継続している。新型コロナウイルス感染数は減少傾向ではあるが、まだまだ油断は出来ない状態であるため、感染予防を含めた対策を継続しつつ企業活動レベルの引き上げを実施している。経済活動の再開に向けた改善の兆しも見受けられるが、まだまだ明るい材料の少ない状況が継続している。

<一般機器>

15. 機械金属・新型コロナウイルス感染者数の拡大は和らいてきているものの、ウクライナ情勢の悪化等の影響により、営業活動の停滞、半導体不足や原油価格の高騰等から、売上高や引合いなどに厳しい状況が見られ、一部に景況感の持ち直しの動きも見られる一方、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境が懸念される。また、需要の停滞をはじめ、原材料価格、輸送費等の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

16. 各種商品卸・4/1~仕入れ先からの値上げが相次ぎ、一部3月に仮需もあった為、4月は売上が減少した。紙以外の副資材も値上がりしているため、今後は更なるペーパーレス化が進むと思われる。
17. 食糧卸・米以外の値上がりが当分続くと想定され、販売量の低下が懸念される。

<小売業>

18. 機械器具・円高の影響をかなり感じる。物不足、売価上昇で消費マインドの低下を感じる。
19. ショッピングセンター・3月の前年対比は売上101.2%、客数97.0%でした。1月に第6波に突入したコロナ感染者数も2/23の402人をピークに徐々に減少し、4月に入り100人を切る日が増えました。売上と感染者数との相対関係は説明できませんが、感染者数が減少するに伴って前年対比は1月94.9% → 2月98.3% → 3月99.0% → 4月101.2%と増えて来ています。業種別には衣料品111.5%、身の回り品99.6%、食品99.15%、住居関連93.9%、となっており、2月80.6%、3月92.6%だった衣料品が気温の上昇と共に上昇しています。
20. 畳小売業・一般家庭用が少々動いたものの、アパート賃貸用はかなり少ない。一方中古住宅のリフォームは多かった。また一戸あたりの枚数も多い。
21. 電気機器・引き続き消費意欲の低下は変わらず、また商品・部材等の流通面での遅延は解消されず厳しい状況が続いている。
22. 各種商品小売業・組合員数が減少したままで、運営に関する問題点解決策など重要な話し合いの時間もどんどん無くなり、益々厳しい状況から抜け出せないでいる。今後はショッピングセンターの在り方同様、新しい生活スタイルに合わせた提案が重要視されるのではないかと思われる。地域に密着しながらも一歩先を行く館のカタチを考えていかなければならないようだ。

<商店街>

23. 徳島市・夜間に通行する人は昨年4月に比べ戻ってきているようだが、売上高に関しては微増程度である。
24. 徳島市・昨年よりは売上高が増加しているもののコロナ前の水準にはほど遠い。人の出はまだ少ないように思われる。駐車場問題も大きい。
25. 鳴門市・仕入れやその他いろいろ値上がりが続いております。しかし、4月はそれなりに商品は動いてくれました。大道は1件店が増えるかもしれず期待しております。

<サービス業>

26. 土木建築業・人員増加による設備追加で電子機器が増え、人件費がわずかに上昇。コロナ対応、対策のため、テレワーク・リモート設備等に投資し充実したことで、事務所経費が増加。
27. 自動車整備業・5月度の新車販売状況については、新車・中古車共に前年度割れ。新車に関しては、登録車、軽自動車ともに対前年同月比は約16%減となった。トータルでは14.5%減。長期化する半導体の供給不足に加えて、新型コロナウイルス感染拡大に伴う中国・上海市でのロックダウンなどによる部品の調達難で車の生産が滞ったことが影響した。懸念材料としては、ウクライナ情勢に伴う原材料価格の急高騰、原油価格の高止まり、そして円安の進行が挙げられる。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録車は前年同月より10.1%減、軽自動車は8.1%減となった。專業事業場の収益を守る策として電子制御装置整備認証の取得があるが、コストをはじめ負担は大きい。今後、自動車の高度化により整備に対応できなくなった特定整備未取得の專業事業場が、ディーラーに仕事を流すといった流れも生まれてくるだろう。今後も普及拡大が続く先進安全自動車の点検整備を担う為に必要な新しい認証取得ができるかどうかは大きい、課題も多い。
28. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境が予想され、これらに対応すべき事業活動に当たる必要があります。特に最低賃金の引上げてによる経営圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。新年度に入り、依然としてコロナ感染者は高止まりが続いており、第7波の到来が懸念されています。ただ、ワクチン接種率が向上しウィズコロナの意識も広まり、ホテル分野のメンテナンス業では客室や各種宴会場などの稼働率も徐々に向上し、売り上げは回復基調にあります。一方、病院等の医療施設におきましては、コロナ感染防止対策による清掃範囲の減少、定期清掃の中止等により、価格見直し(減額)は継続中であり回復のめどはたっていません。こうした中、来るべきコロナ収束後に備え従業員の定着及び補充活動も経営課題として取り組んでいます。以上のほか、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところです。
29. 旅行業・県民割が再開し旅行を考える人が多くなっていると感じるが、団体旅行や県外への旅行までにはいたらない。学校関係は少しづつ動きはじめてある。県南エリアはDMV関連のツアーが増えてきている。経済効果は不明だが、土日は個人客も増加している。

<建設業>

- 30. 建設業・資材が高値（異形棒鋼（鉄筋用）は前月比約14%、等辺山形鋼（中形）は6%）の上昇となっている。
- 31. 板金工事業・新築の上棟数が減少する中、多くの工務店がリフォーム工事に力を入れている感じがする。増築工事・改修工事の見積りが多くなっている。
- 32. 鉄骨・鉄筋工事業・3月と同じ。材料の値上げがまだ続く見込み。
- 33. 電気工事業・新設住宅口数は155件であった。

<運輸業>

- 34. 貨物運送業・4月の軽油平均単価は国の補助金(上限35円)を受け、前月平均比約3円の値下がりとなった。令和3年度(4~3月)は前年度比約35円の値上がりを記録。この現状とコロナ禍にあって、今月も大きな量的な増加は見られなかった。運賃の転嫁が進まない中で、厳しい経営が続いている。
- 35. 貨物運送業・今年に入り売上高減少、収益状況悪化とを感じる事業者は多くなった。業界の景況の悪化を是正するには、粘り強く運賃交渉を進める必要がある。2024年の運転手への時間外労働規制が目の前にせまっており、荷待ち時間の是正など荷主企業の協力なくしてはクリアできない課題も多い。